

フィッシング対策協議会

月次報告書（2006年2月分）

フィッシング情報届出状況

2006年3月20日

目次

1.	フィッシング情報届出状況	2
1.2.	業種別の状況.....	3
1.3.	フィッシングサイトの国別トップ 10	3
1.4.	フィッシングメールの動向.....	3
1.5.	フィッシングサイトの動向	4
1.6.	フィッシング関連の不正プログラム情報	4
1.7.	その他の動向	4
1.8.	総括.....	4

1. フィッシング情報届出状況

1.1. フィッシング情報届出状況

2006年2年度のフィッシング報告件数は40件でした。

・フィッシング情報の届出件数： 40件

(2006年1月度6件、12月度0件、11月度2件、10月度2件、7月度1件、6月度1件、5月度0件、4月度0件、3月度2件)

・フィッシングメールの件数： 40件

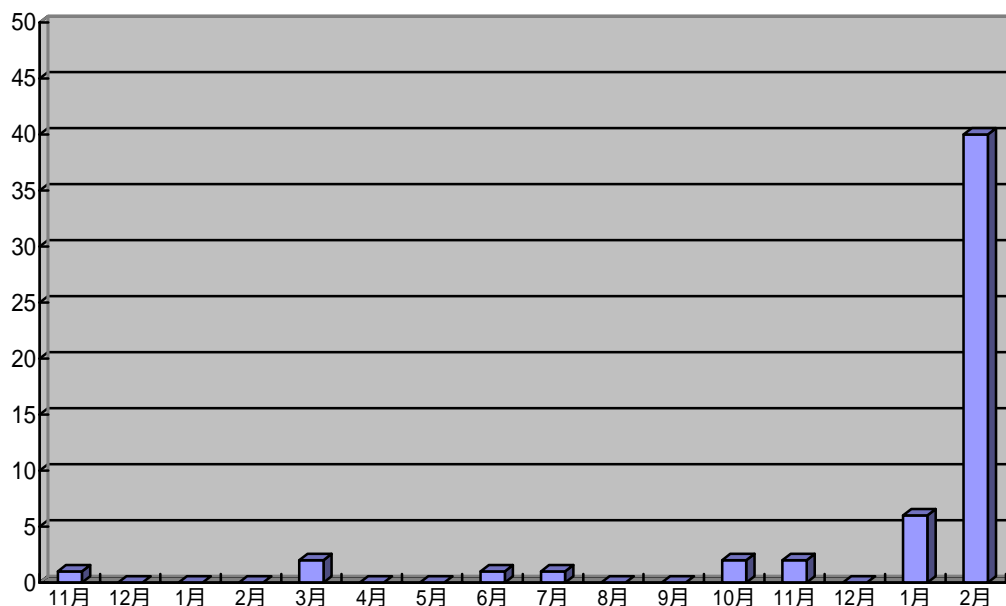
・フィッシングサイトの件数： 6件

(2006年1月3件、12月度0件、11月度2件、10月度2件、7月度1件、6月度1件、5月度0件、4月度0件、3月度2件)

・フィッシングによりブランド名を悪用された企業の件数： 4件

(2006年1月度3件、12月度0件、11月度2件、10月度2件、7月度1件、6月度1件、5月度0件、4月度0件、3月度2件)

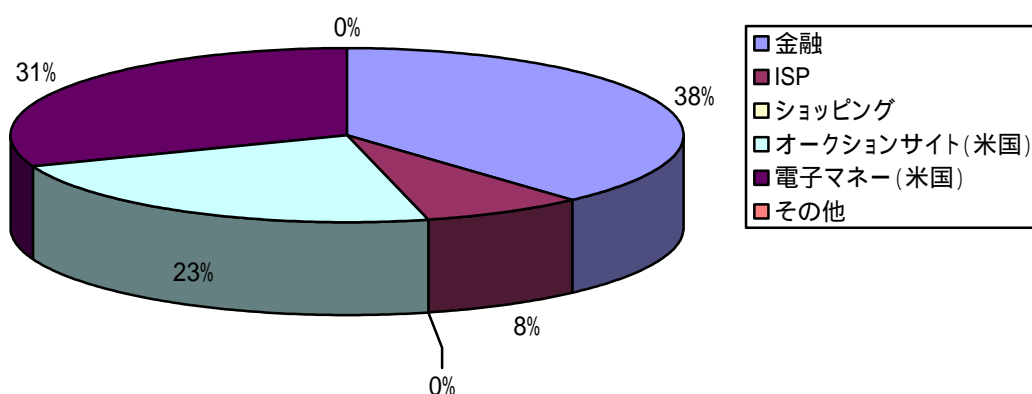
・もっともフィッシングに利用されるWEBサイトが多かった国： カナダ



フィッシングサイトの報告件数(2004年11月～2006年2月)

1.2. 業種別の状況

2004年11月度から2006年2月度までの統計は従来までの金融関連5件、ISP1件、オークションサイト3件（米国2件・日本1件）、電子マネー4件（米国）という統計になっています。



業種別の状況（2004年11月～2006年2月）

1.3. フィッシングサイトの国別トップ10

現在ではカナダ、ルーマニア、ウルグアイ、ポーランド、韓国が各1件、日本3件、ペルー2件、中国が3件、米国が6件確認されています。

1.4. フィッシングメールの動向

現在確認されているものに関してはHTMLメール偽装リンクを設置してフィッシングサイトに誘導させるというもののみが確認されています。

1.5. フィッシングサイトの動向

今回報告されたフィッシングサイトのうち1件は実際にアクセスする URL が本物の URL に似ている手法がとられていました。具体的には「Payapl」「Payqal」というものでした。

1.6. フィッシング関連の不正プログラム情報

特にありません。

1.7. その他の動向

特にありません。

1.8. 総括

2月度は統計開始後最も多くの届出が来た月となり、前月比約7倍の報告件数でした。これは、タイトルが「Attention! Several VISA Credit Card bases have been LOST!」という Visa International を装った偽装メールが日本国内においても大量に出回り、それが当協議会へ報告されたものと思われます。このように、日本国内においても大量の英語のフィッシングメールが出回るということは、フィッシャーの攻撃の対象が日本にもなりつつあるということが伺えます。

また、日本国内のフィッシャーが故意に英語のフィッシングメールと偽装サイトを使い、日本人の情報を収集している可能性もあります。